

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 1	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Cigarette smoking, alcohol drinking and the risk of gallbladder cancer death: a prospective cohort study in Japan. 喫煙、飲酒と胆嚢癌死亡のリスク：日本における前向き研究	
執筆者：	
Yagyu K, Kikuchi S, Obata Y, Lin Y, Ishibashi T, Kurosawa M, Inaba Y, Tamakoshi A; JACC Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Cancer. 2008 Feb 15;122(4):924-9.	
キーワード：	
コホート研究、胆嚢癌死、喫煙、アルコール摂取	
要 旨	
<p>目的： 胆嚢（たんのう）癌は予後不良のまれな癌である。今日までにその危険因子はほとんど明らかにされていない。喫煙およびアルコール摂取と胆嚢癌による死亡リスクの関連を前向き研究にて検討する。</p> <p>方法： 1988年から1990年にかけて日本全国45箇所で自記式調査票を用いた基礎調査を行った。調査時に40-89歳であった113,496人（女性65,740人）の参加者を15年間追跡した。</p> <p>結果： 追跡期間中165例の胆嚢癌死亡（女性95例）が観察された。女性においては現在喫煙者のハザード比（HR）および95%信頼区間[95%CI]は2.00 [0.91-4.22]であった（年齢と飲酒による調整済み）。アルコール摂取とリスクとはは明らかな関連を認めなかった。 男性では、現在喫煙者のHRは2.27 [1.05-4.90]であった。一日に21本以上の喫煙者および一年に801-1000本の喫煙者でのHRは各々3.18 [1.18-8.53]、3.44 [1.40-8.45]であった。喫煙量とリスクの間には、線形的な正の相関が認められ、p for trendは一日の喫煙数で0.007、喫煙数×喫煙年（ブリンクマン指数）を指標とした場合で0.012であった。 男性では、アルコール摂取量とリスクの間にも線形的な正の相関が認められ（p for trend=0.004）、一日当たり72.0グラム以上のアルコールを摂取する場合のHRは3.60 [1.29-9.85]であった。</p> <p>結論： 男女ともに喫煙は胆嚢癌による死亡リスクを上昇させる可能性がある。飲酒に関しては男性においてはリスクの上昇に関連しているかもしれないが女性でははっきりしない。</p>	